



南丹市陸上競技協会

# 南丹市陸協通報

## 「一年を振り返って」



南丹市陸上競技協会

理事長 朝倉 幸平

冬の訪れとともに、陸上競技界は駅伝・マラソン等が本格的なシーズンとなり、会員の皆さまにはまだまだ競技会の運営等、ご協力をいただいているところではございますが、この一年、協会の運営に多大なご理解、ご協力をいただきましたこと、書面にて失礼ではございますが厚くお礼申し上げます。

2月の役員改選に伴い、森利夫新会長のもと、理事長の大役を仰せつかり早くも1年が経とうとしています。

これまで、選手強化・普及ばかりに携わっていた私を筆頭に、各部もほぼ全員が新任部長という、協会や競技会の運営に対しては無知の素人集団である我々新役員のために、理事会を役員会に拡大していただき、長年、当協会運営に携わっておられる諸先輩方からご指導、ご助言をいただく等、皆さまには多くのご迷惑をおかけしていたにも関わらず、温かいご理解をいただき支えていただいたことに重ねてお礼申し上げます。

今後は、さらに円滑な協会、競技会運営を目指すとともに、全国レベルで活躍するトップアスリートの輩出を目指し、強化の充実を図っていく所存でございます。引き続き、会員の皆さまのご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

### 編集後記

本年は、南丹市陸協が新役員で始動した初年度。見計らったかのよう  
に時代も「平成」から「令和」に変わり、そして待ちに待った東京オリンピック、パラリンピックも半年後に迫ってきています。  
特に今年はラグビーワールドカップで日本中が沸いた年で改めてスポーツが持つ力を感じた次第です。  
来る2020年も我が南丹市陸協もワンチームでがんばりましょう！

## 2020 東京オリンピック・パラリンピックへの道 Ⅲ

副理事長 内藤 竹司



6月1・2日に大阪で開催される日本パラ陸上、6月27日～30日に福岡で開催される日本選手権が私の今年度の研修に決定。

6月、昨年セイコーゴールデングラプリで来た長居陸上競技場に再びやってきた。パラ陸上の審判は初めてで、京都からの参加は私一人でもあり大いに不安があった。しかし、二日間の審判は無事終了し、初めてのことで大変勉強になった。

6月26日、いよいよ日本陸上競技選手権大会の審判で博多入りした。大学の頃に補助員として何度も経験した日本選手権。今度は審判員として参加でき非常に光栄に思えると同時に、絶対失敗は許され

ないという思いが交錯し、複雑な心境で翌27日会場に向かった。去年のセイコーゴールデングラプリでは跳躍主任が大学の同級生だったが、今回はなんと跳躍の審判長が大学の同級生で、同じ短距離パートと一緒に練習をした人物だった。

初日はサポート班で何かトラブルが起きた時に対応する班であったが、砂場ならしの大学生が来れないということで急きょ男子三段跳の砂場ならしをすることになった。

もう一人砂場ならしの審判がいた。鹿児島から来られた大村先生で走幅跳、三段跳が専門である。私より1歳年下で高校時代は2年生で走幅跳インターハイチャンピオン。3年生の時は走幅跳2連覇し、三段跳も優勝の2冠達成。その後筑波大学時代は日本選手権も制している日本のトップ選手である。

現在は鹿児島で大学の教授をされている凄い方と砂場ならしを一緒にしたが、彼の口から過去の自慢話や砂場ならしに対する不平不満はまったくなく、ただ黙々と砂場を整地される姿はこの大会で一番感動した。

二日目は女子走幅跳の副審、三日目はサポート班だったが何もなく見学。最終日は雨の中、午前中は女子三段跳の呼び出し係、午後からは男子走幅跳のタイマー係で橋岡選手ら日本のトップ選手の跳躍をまさに目の前で見る事ができた。しかし、お昼のお弁当を食べたのは午後5時過ぎだった。雨や汗でべとべとの体のまま着替えもできず最終の新幹線に飛び乗った。あっという間の4日間の大会を思い出しながら無事に帰宅した。



## TOKYO 2020 オリンピック・パラリンピックへの道 II

審判部長 大倉 直也

2020オリンピック・パラリンピック審判に向けての現地研修、マラソングランドチャンピオンシップ（以下MGC）に行ってきた。

MGCは9月15日。担当は20km地点での飲食物供給所の副主任（パーソナルドリン担当）となり、大会当日は、早朝5:30に集合し、最終ミーティングの後現地へ移動。6:30頃到着。20km地点「日本橋」交差点は、10km、20km地点、そして終盤に差し掛かる28km付近が交差しランナーが3回通過する応援ポイントでもあり、観衆も多かった。

男子8:50、女子9:10にスタート。男子30名、女子9名だけのために、東京の大通りを封鎖してのマラソンが始まった。約30分後には10km地点を通過していく男子選手がやってきた。沿道は大観衆が詰めかけているが、コース上は静寂。しばらくすると歓声の波が押し寄せてきた。日本橋の交差点を先頭の設楽選手が独走で曲がってくると、一気に大歓声が沸き起こり、こちらまで身震いする感動を覚えた。その後、後続集団。また女子の先頭集団が通過していくのを横目に、戻ってくる20km給水所の任務に専念。

折り返してきた先頭の設楽選手が戻ってきて、また大声援が沸き起こる。しかし感動している場合ではない。トラブルは起きないか集中し監察を行った。独走の設楽選手は問題なく通過。後を追う後続選手も無事に給水しながら走って行った。

続いて女子の選手も戻ってきた。前田選手、鈴木選手を先頭に、皆が給水をしていくが、女子選手は道路の左側（歩道側）を走る選手が多く、疲れてきている選手も増え、給水所が右にあることを伝え、気づいてもらうことが大変であった。

担当したのは、男子の通過から、女子の最後尾まで40分程度であったが、これまでにない緊張感の中で任務を全うし、同じ給水所の審判員、ボランティアの方々と協力し、無事に終えた感動を分かち合い、また来年お会いできたら頑張りましょうと言いながら、担当部署を離れた。

そして帰宅すると宿題が届いていた。大会レポートを提出せよとのこと。びっしり書いて無事に現地研修は終了。このようなチャンスを頂いた関係各位の皆様、本当に感謝したい。今後の財産として活かしていきたいと思う。

そして数日後、振って沸いたように「マラソン、競歩の札幌移転問題」が出てきた。

そうこうして、札幌で開催、日程が決まり、ようやくマラソンコースが決定し、運営本部も発足したとのこと。また、パラリンピックのマラソンは東京で開催も決まった。

東京オリンピックの熱気を肌で感じることは難しいのかも知れないが、与えられた場所で、与えられた任務を全うできるように備えていきたい。

## アスリートインタビュー

明日をリード!



南丹市立胡麻郷小学校 6年

は せ が わ な る と  
長谷川 也琉音 さん

京都府小学生陸上競技選手権大会 800m 丹波予選を 2 位で通過し、本選に出場した長谷川さんに陸上に対する思いをインタビューしました。

**Q1：陸上を始めたきっかけは？**

A1：兄が陸上大会に出ているので、僕もしてみたいと思ったからです。

**Q2：予選を通過した時はどうでしたか？**

A2：思ったより良いタイムで走れたし、2分40秒台を切ることができたのでうれしかったです。

**Q3：800m走を選んだのはどうしてですか？**

A3：100m走より、良い記録が出ると思ったし先生に勧められたから、800m走に出場しました。

**Q4：走るときに気をつけていることはどんなことですか？**

A4：呼吸や足のリズムと、良いフォームで走ることを意識しています。

**Q5：たけびしスタジアムで走ったとき、どんな気持ちでしたか？**

A5：最初は、少し緊張したけど、しっかり自分の力が出せたので良かったです。

**Q6：これからの目標は？**

A6：自己タイムを伸ばしたいし、駅伝などにも出られるように頑張りたいです。

